

平成31年度墨田区立第三寺島幼稚園経営報告書

令和2年3月15日

幼稚園目標	人間尊重の精神を基調として、心身ともに健康で、知性・感性に富み、人間性豊かな幼児を育成する。 ◎◎元気によく遊ぶ子ども ○やさしい心をもった子ども ○進んで取り組み、最後までやりぬく子ども
目指す幼稚園像	明るく温かく笑顔あふれる幼稚園
目指す子供像	◎◎元気によく遊ぶ子ども ・意欲的に遊び、五感で感じ取り、自分なりに表現することを楽しむ。 ・明るくのびのびと充実感を味わうよう、遊びの中で十分に体を動かす。 ・健康な生活リズム・食の習慣を身に付け、暑さ寒さに負けず進んで戸外で遊ぶ。 ・危険なことや災害について知り、安全に気を付けて行動する。 ○やさしい心をもった子ども ・友達とのかかわりを深め、思いやりをもつ ・自然や身近な動植物に親しみ、命あるものを大切にし、いたわる気持ちをもつ。 ・高齢者や地域の方達、異年齢の子ども達に親しみをもつ。 ・様々な国の文化に触れ親しみをもつ。 ○進んで取り組み、最後までやりぬく子ども ・遊びや行事等を通して、自分なりの目標をもってやり抜き、熱中する体験を積む。 ・試行錯誤や協同することを積み重ね、友だちや他の人とのかかわりを楽しみ達成感を味わう。 ・「なぜ、どうして」など、興味や好奇心をもち、少しずつ自分の世界を広げていく。
目指す教師像	○愛情をもって子どもの思いや願いを受け止め、自立心や意欲を育てよう、認め勇気づける指導を進める。 ○幼児理解に努め、一人一人の興味関心を大切にしながら、日々の教育活動・環境づくりを振り返り、研究・研鑽に努める。 ○園の教育活動を進んで知らせ、保護者と共に、児童の成長を喜び合う。幼稚園が親と子の温かい育ちの場となるよう、親身に接し相談や支援に努める。大人も相互に学び合い成長する。 ○保護者・地域・小中学校と連携し、豊かなかかわりや具体的な体験の場を創り出す。

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
保育活動等	園は、子供の主体的な活動を促す教育の実施に努めているか。	B	○幼児の関心意欲を高める環境づくりや、保育活動を創り出す。 ・幼児の発達の段階に応じた課題の設定をし、個別と一斉の指導のバランスをとりながら、保育活動を進める。 ・計画的に時に柔軟に園児の実態に合わせて、環境や課題を設定する。 ・行事のねらいや内容を工夫し、さらに幼児の自主性が引き出されるよう指導の質を高めていく。	B	B
	園は、特別な支援を必要とする子供に対して、組織的に適切な支援を行っているか。	A	○全教職員の共通理解を基に、特別支援教育体制を整え充実させる。 ※保護者との面談、関係機関との連携・就園・就学相談の充実 併設小学校特別支援教室との連携	A	A
	園は、子供の将来の自立に向けた保育活動・相談活動に取り組んでいるか。	B	○幼保小の連携を進め、小一プログラムに対応した、アプローチプログラムを進めていく。 保護者の日常的な相談を進め、子育てへの不安に寄り添う。 早い時期から、就学相談や進学への丁寧な対応に努める。 幼小の連携をさらに進め、小学校への関心・意欲・態度を育てて行く。	B	B
	園は、教員の指導力を高めるために組織的に取り組んでいるか。	B	○園内研究・区幼研などで、具体的な保育実践を通して研修研究を進める。他園の参観や、研修に積極的に参加する。特に若手の育成のため、経験者とチームになって実践する。	B	B

様式3

<p>学校関係者評価委員会の意見等</p>	<p>さまざまな行事において、幼児が自主性や創造性を発揮する場面が見られた。行事での姿が素晴しかった。環境設定が工夫されている。保護者との相談体制や就学に向けた相談は、関係機関との連携を進めていく。若手教員の育成を進めていく。</p>
-----------------------	---

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
生活指導等	園は、子供の問題行動の予防や解決に組織的に取り組んでいるか。	B	○教職員は幼児の良さに目を向け、勇気づける対応に徹する。園児には友達の良い姿に目を向けさせる。※1の取組と同じ	B	B
	園は、子供が基本的な生活習慣を身に付け、望ましい人間関係を作るための心の教育を行っているか。	B	○「早寝、早起き、朝ご飯」の励行を進める。 ○元気なあいさつができるよう目指す。 言語環境を整え、教師は正しい言葉を使う。ふわふわ言葉を使うよう指導する。 ○遊びの中で集団のルールや善悪の判断を身に付けさせる。また、自分の気持ちを調整することを学ぶ。 ○障害者・高齢者や保育園児等との交流を通じた、かかわりを大切にされた保育を進める。 ○絵本の読み聞かせや親子読書の時間を設定し、心を育て、人のぬくもりが感じられる時間や場を作る。	B	B
	園は、子供の安全を確保するための取組を行っているか。	A	○日常的に防災・安全教育を進める。適時の安全面での指導を徹底する。小学校と連携した訓練や、保護者参加の訓練、遠距離の避難訓練を進め、「自分の身は自分で守る」意識を、幼児なりに身に付けさせる。 ○不審者対応訓練・環境整備など、園生活の安全を高める取組を進める。	A	A
	園は、子供や保護者からの意見や要望を把握し、保育活動の点検や改善に役立っているか。	B	○一人一人を尊重し、受容的な態度で聞くことに徹する。日常の対話を大切にし、教職員からの声かけや要望の聞き取りを進める。家庭訪問・個人面談を実施。園公開、各行事のアンケートを毎回実施する。実施後の集約を保護者に発信する。(園便り、HP)	B	B
	学校関係者評価委員会の意見等	保護者との良好な関係を築き、共に教育に当たっている。親子参加の活動へは、保護者の意識が変容してきている。園の教育活動に対応できない家庭もあるので、計画時に無理のない方法を考えていく。			

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
幼稚園の管理運営	園は、管理職の経営方針をもとに、組織的な教育活動・園運営を行っているか。	B	○園の教育計画を基に、主任・副園長を中心に進行管理に努め、若手と経験者が協力して、時期を得た計画立案、適正な実施を進めていく	B	A
	園は、子供の実態に合わせた具体的な目標の設定及び評価を適切に行っているか。	B	○「元気よく遊ぶ子ども」を重点にし、年間を通して自然体験や生活経験を通して、自発的に活動することや、表現することを楽しむ意欲や態度を育てる。多様な遊びで生きる力の基礎を育み、将来の「自ら学び考え行動する力」につなげていく。 ○学校・園運営連絡協議会を開き、園での教育活動について、意見交換を行う。 ○保護者アンケート・自己評価を実施し、分析の上、園関係者による評価の機会を作る。	B	A
	園には、適切な教育活動が行える環境・設備等が整えられているか。	B	○限られた自然環境なので、プランター、花壇の整備を行い、植物の育成を工夫する。 ○園庭での熱中症予防策として、日よけの整備。園内の防災のための整備を進める。 ○感染症予防、防止のための衛生面での取り組みを徹底する。	B	A

様式3

	学校関係者評価委員会の意見等	保護者の意見を取り入れ、改善策もその都度示し実施してきたことで、概ね理解が得られている。
--	----------------	--

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
家庭・地域	園は、保育方針や日常の保育活動の様子などを分かりやすく伝えているか。	B	○園公開・各種行事等保育活動の公開を進める。 ○園便り・クラス便り・HP・園内Instagramにより、保育を分かりやすく知らせる。	B	B
	園は、保護者や地域の理解や協力を得て保育活動を進めているか。	A	○保護者や家族の参加による行事を行う。 ○保護者の会との連携を進め、豊かな保育活動へつなげる。 ○行事に、地域関係者を招き、園児との交流を進める。 ○幼保小中一貫教育を進め、行事を共同で実施し、園への訪問を積極的に促していく。	A	A
連携	学校関係者評価委員会の意見等	遊びこそが学びであるという公立幼稚園のよさをさらに発信していけるとよいのではないかと。また、隣接の小学校との交流が頻繁にあり、中高の生徒の交流や地域の敬老会など交流が継続され、園児にとって豊かな関わりの場となっている。今後も、家庭・地域との連携の場をつくっていきたい。			

2 平成31年度学校評価のまとめ

保護者の幼稚園への満足度が90パーセント以上。子供の自主性を尊重し、各自の成長に合わせた働き掛けと、集団での学びの良さが生かされていることが評価されている。教員の他、支援員・介助員等が子供に対して丁寧に対応してきたことも評価された。公立幼稚園ならではの良さが理解されている。本園の特徴や良さが外部へ発信されるとよい。未就園の保護者への情報提供をさらに進めていく。

保護者のニーズが変容してきている。働き方改革も進めながら、保育の体制に工夫が必要である。

今後も、保育の質を上げていくために研修や研究を日常化していく。地域に愛され継続してきたことを誇りとし、さらに子供たちの力を引き出し、保護者と共に子供たちの育ちを支援していく幼稚園であるよう努力する。

以上の通り報告いたします。

墨田区立第三寺島 幼稚園 園長 中村 奈緒美

